

古代の天体観測から、宇宙環境での研究・実験まで

天文・宇宙開発事典

トピックス 古代-2009



9784816922039



日外アソシエーツ編集部 編

A5・490頁 定価(本体12,000円+税)

ISBN978-4-8169-2203-9 2009年10月刊行

世界天文年2009日本委員会公認書籍*

内容見本

この一冊で、関連分野の出来事を時代を追って理解できる！

- 古代～2009年まで、国内外における天文・宇宙開発分野の発明・発見、ニュースなど2,907件を年月日順に掲載した年表事典です。
- 日食周期の発見、暦の発明、天動説、地動説、望遠鏡の発明、天文台の創設、新星の発見、宇宙形成論、人工衛星やロケットの開発、月面着陸、宇宙ステーション、天文雑誌の創刊、SFの発展など幅広く収録。また、各トピックスは、わかりやすく簡潔に記述しました。
- 同類のトピック・出来事を探して経過を辿るのに便利な「事項名索引」「人名索引」付き。

*世界天文年とは…

2009年はガリレオ・ガリレイが初めて望遠鏡を夜空に向け、宇宙への扉を開いた1609年から400年。国際連合、ユネスコ、国際天文学連合は、この2009年を「世界天文年」と決めました。世界中の人々が夜空を見上げ、宇宙の中の地球や人間の存在に思いを馳せ、自分なりの発見をしてもらうこと。それが世界天文年の目的です。

150年	この頃 プトレマイオスが「天動説」を完成 アレクサンドリアの天文学者プトレマイオスが全13巻から成る著書「アルマゲスト」を著し、古代ギリシアの天文学を数学的に体系付けた。その中で地球が宇宙の中心に位置し、太陽やその他の惑星は地球の周りを回るといふ「天動説」を唱えた。この説は1543年にコペルニクスの地動説が出るまで1400年間、支配的な考えとなった。
1241年 (仁治2年)	8.20 歌人・藤原定家が没する(日) 鎌倉初期の歌人・藤原定家が没した。…五十余年にわたって書き続けられた日記「明月記」は高い資料的価値を持ち、天文学的にはかに星雲の超新星爆発に関する記述があることで知られる。2006年12月には、定家が「明月記」に記した超新星爆発から5月1日で1000年になることを記念し、京都市で国内外の超新星やX線天文学などの研究者が集う国際会議が開かれた。
1543年	この年 コペルニクス、「地動説」を唱える(ポーランド) ポーランドの天文学者コペルニクスは、その著書「天球の回転について」において、太陽を宇宙の中心とする「地動説」を唱えた。プトレマイオスの天動説天文学大系とは対極にある壮大な地動説天文学大系
2009年 (平成21年)	7.19 「きぼう」完成 日本時間7月16日午前7時3分(米東部時間15日午後6時3分)、日本の実験棟「きぼう」最後の構造物を搭載したスペースシャトル「エンデバー」(船長:マーク・ボランスキー船長)が打ち上げられた。同19日、若田飛行士らがロボットアームを使い約9時間かけて、欧米やロシアの実験棟にはない「船外実験プラットフォーム」の設置に成功。

2020.6

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

注文書	■貴店名	天文・宇宙開発事典トピックス 古代-2009	冊
	■お名前	定価(本体12,000円+税) ISBN978-4-8169-2203-9	